



北アフリカ地域ニュース

アルジェリア：ガス版 OPEC に関する発言

(3月19日付「マグレブ」紙)

1. ヘリル・エネルギー鉱業相は、ガス版 OPEC 創設問題に関し、数週間前には、ガスが長期契約により販売されるという理由で距離を置いていたが、考えを変えたようだ。3月18日、同相はオランにて、「露の大企業 Gazprom によるアイデアに生産国が興味を示すならば、ガス版 OPEC は実現し得るであろう」と述べた。同相はメディアに対し、「生産国がこのアイデアに関心を示す限りにおいて、ガス版 OPEC を創設することが出来る。今のところ、次回のドーハでのガス生産輸出国会議(GECF)で、我々が議論しなければならない一つの考えである。原油と同様に、価格に影響を与えるガス・カルテルという考えは、昨年8月に露の Gazprom により初めて言及されたが、仏・伊・西といったアルジェリアと露の欧州の顧客の中で大きな懸念を招いた。2月1日、プーチン露大統領はこの考えを興味深いとし、更に最近イランによっても言及された。ブーテフリカ大統領は、OPEC をモデルとしたガス生産国によるカルテル創設が自らの利益を守る為に生産国を団結へと押しやるグローバル化によってもたらされる趨勢に結びつくとしている」と述べた。
2. ヘリル・鉱業エネルギー相は、ガスの販売は一般に20年以上の長期契約により行われ、又、ガス価格は原油価格にスライドする為、これまでガス版 OPEC は不要と説明してきた。OPEC をモデルにして機能するガス・カルテル創設の考えは、2006年3月のプーチン露大統領によるアルジェリア訪問の際に現実味を帯びた。同大統領の訪問の主要な成果は、特にガス分野での協力強化であった。ガス分野での交渉の概括は、長期的に露にとって特別な重要性を持つことになると言われた。Gazprom 社長によると、露 (Gazprom) とアルジェリア (Sonatorach) は、北アフリカでのガス鉱床の共同開発を行う。露とアルジェリアの間で締結された合意は、ガス輸出国による将来のカルテルへのアルジェリアの加入に向けた重要な一歩と意味づけられた。
欧州において、欧州ガス市場での露の主要な競争相手と認識される傾向にあるアルジェリアのプレゼンスは、本協力を超地域的な同盟としての地位を与え、消費国との交渉を行なう全生産国の立場を著しく強化した。露を当該国家機構の中での指導的立場への候補とする集合体は、今のところ組織されていない。欧州に於いて懸念されるのは、露が保持し得る影響である。又、見たところ、相互保障は懸念を払拭するには不十分であった。そのことから、問題提起へと堂々巡りとなる。